

9.11 国鉄労働者集会の成功を！

日刊 勤労千葉

1988.8.15
No. 2820

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話二九三五五六（公衆）〇四七二二七二〇七）

右翼労戦「統一」反対

労働運動の戦斗的再生を★

勤労千葉と勤労総連合は、きたる九月十一日「右翼労戦『統一』反対、闘う国鉄労働運動の確立を目指す、九・一一国鉄労働者集会」の開催を決定し、全国に呼び掛けを発した。

本集会は、労働戦線の右からの破壊と闘い、国鉄・三里塚をはじめとする八八〇九〇年の闘いの突破口をきずく重要な集会となる。職場から根こそぎの決起で九・一一集会を大成功させよう！

「総評解散」 「反対！」
「右翼労戦『統一』 絶対反対！」

総評は過日の大会で「総評解散」を決定した。この「総評解散」という歴史的事態をむかえながらも、職場・生産点ではこれを「歓迎・支持」する声があつたといつていいほど出てこない。聞こえるのは、指導部の「このままでは聞えない、だから統一するのだ」という弁明じみた声だけである。むしろ現場の労働者は「このままではいけない。なんとか闘わなければいけない」と危機感をもつて流動化と活性化を開始している。いまこそ勤労千葉と勤労総連合が「労農連帯・実力闘争」の旗をかかげ、労働者の闘いの中心になつて闘う時なのだ。

「連合」とは何か。それは勤労革マル・鉄道労働をみればよくわかるように、労働者のための労働組合ではない。常に資本・当局の顔色をうかがいながら労働者を支配する「悪代官」のようなものだ。ストライキ・実力闘争を否定し、「闘っても勝てない」と敗北主義をふりまく資本の代弁者どもの「統一」など許すな。今こそ、闘う労働者の潮流をつくりあげよう。

9.11 国鉄労働者集会
◎13時 (東京)
◎南部労政会館

「資本・当局」の先兵
勤労革マル・鉄道労働連
解体！

その中でも、とりわけ勤労革マル・鉄道労働は資本・支配者階級の最悪の先兵になっている。こんにち鉄道労働は「JR党」と称しながら自民党と「支持協力関係」をとりむすぶ「労組」へとより一層悪質化している。そして勤労千葉・総連合、国労の破壊を叫び、清算事業団労働者を「早くくじにしろ」と主張し、「会社の利益が上がることに労働者の利益になる」など資本のイデオロギーを満展開するに至っている。そして、あわよくば鉄道労働は「連合」を自民党支持にもつていき、現代の産業報国会に変質させようというのだ。鉄道労働の解体・一掃こそ「右翼労戦『統一』」を粉碎する道である。

闘う労働運動の真価を
発揮する時代の到来！

八八年後半から九〇年にかけて闘いは、清算事業団労働者五千名の排除を狙った国鉄時限立法の期限切れ（九〇年三月）や三里塚二期九〇年概成との決着をはじめ、重大な情勢がおよせてきている。

「ソウルオリンピック戒厳体制」「消費税導入」「天皇Xデー問題」「原発の高まりに対抗した原発推進運動、核廃棄物処理施設の建設」など、その一つひとつが日帝・竹下政権の戦争準備にむけた攻撃なのだ。「なだしお」事件にみられるように自衛隊はすでに軍隊としてふるまっているではないか。「右翼労戦『統一』」とは戦争準備の最大の柱なのだ。

いまこそ労働者の闘う潮流の登場が求められている。団結を強化し、闘えば必ず勝てるという確信をうちかためて、九・一一集会の成功をかちとろう！